

令和6年度 岩手医科大学入学式



主な内容

巻頭言—— 祖父江理事長就任挨拶

—— 小笠原学長就任挨拶

—— 遠藤看護学部長就任挨拶

特集—— 当院のロボット支援手術

令和6年度事業計画

トピックス—— 岩手医科大学入学式が挙行されました

募金状況報告

表紙写真：令和6年度岩手医科大学入学式（関連記事P.11）

理事長就任挨拶

理事長 そぶえけんじ 祖父江 憲治



今般、小川彰前理事長の後塵を拝し、学校法人岩手医科大学理事長を拝命致しました。本学の大激動期、事態の重大性と責任の重さを改めて実感し、身が圧せられる思いです。

本学は現在 3,000 名余の教職員および非常勤職員と、2,000 名近い医科・歯科・薬科・看護科の 4 学部学生と大学院生を擁する医療系総合大学として、岩手県のみならず北東北における医学・医療の中核拠点としての一翼を担っています。

今春、岩手県医師会の新医師歓迎会がありました。今年度は 74 名の新医師が参加してくれました。出身大学は岩手医大をはじめ、多数の他大学から成っています。この中で、2 年の研修医終了後も本学と関わってくれそうな新医師が 2 / 3 以上でした。本学の専攻医は令和 6 年度で 220 名程ですが、これらの新研修医諸君が続いて本学関連の専攻医コースに入ってくれることを願っております。働き方改革が叫ばれている中で、特に注目を集めているのが医師の働き方改革ですが、文字通りの制約の中では恐らく地域医療は崩壊する可能性すらあります。これを防ぐ手だては、いかに多くの医師が本県にそして本学に集まってくれるかにかかっています。これもなかなか容易なことではありませんが、出来る所から実践していきましょう。医師の卒後教育に関連した話をしましたが、歯学部・薬学部・看護学部も同様です。歯学部は研修歯科制度がありますが、これ以降の研修体制はありません。薬学部、看護学部も医療人となり就職しますと、それ以降の研修体制はありません。今後、各医療人が必要に応じて最新医療を研修できる制度なり体制造りを働きかけてまい

ります。

いずれの国公立大学においても、経営・入学者数・専攻学部など苦難を強いられる時代となりました。中でも医療系大学は、未曾有のコロナパンデミックにより経営面で大変な状況に陥っています。本学でも、矢巾新病院建設に伴う想定外の建設費高騰による借入金返済に加え、学部によっては大幅な定員割れで学納金収入減を来とし、財政面で危機的状況にあります。現在、財務改善策、矢巾・内丸両病院の機能的役割分担と整備、定員割れを起している学部の入学生増対策などについて、短期と中長期に分けて対策を検討中で、早々にその方針を決定する予定です。

これから行うべき改革は、本学の将来へ向けた大きな変革点となるものです。財政危機は本学創立以来 127 年の歴史の中で、これ迄に幾度か経験してきました。今般の改革の要点は、組織改変とか機能改革というよりは、本学教職員の皆様方が従来の慣習に囚われたり、依存することなく、新時代に向けて変えられる所から変えていくという、構成員一人一人の意識改革とその決意さらに実行性にあると考えています。新方針がまとまり次第、改めて皆様方に御理解と御協力をお願いする所存です。本学の刻んできた長い歴史に安住することなく、同時にこれまでの歴史と伝統を大切に守り、新たな岩手医科大学を造ってまいりましょう。

学長就任挨拶

お が さ わ ら く に あ き
学 長 小笠原 邦昭



今搬、第十二代岩手医科大学学長を拝命することとなりました。本学は今年創立 127 年目になります。学是である「医療人たる前に、誠の人間たれ」を実践すべく邁進する所存です。

岩手医科大学は三田俊次郎先生が明治 30 年に建学されて以来、多くの先人のご努力により歴史を築いてまいりました。毎年毎日が激動との直面であり、安寧な時期・瞬間はなかったと推察します。皆様が感じていますように、現在も激動の中にいます。しかし、先人も同じように感じて、大学を発展させてきたのではないのでしょうか。学長とは、この激動の中でよりよい方向あるいは方法を模索して、導く仕事であると認識しています。以下抱負を述べさせていただきます。

本学は大学でありますので、研究は必須であります。私の主観では、現在の岩手医科大学の研究の発信元は医歯薬総合研究所の各部門であることが多く、当大学の研究を発展させるためには、ここを発展させることが、最も合理的ではないかと考えます。本来医歯薬総合研究所は各学部と乗り入れし、共同して研究成果をあげるために作られた部門であります。しかし、共同研究を行っている部署はわずかであり、もったいなさを感じます。看護学部も含めた総合研究所として、さらに各学部、各部署との共同研究を行い、科研費も含む公的競争研究費を獲得していただきたいと思います。

附属病院が矢巾、メディカルセンターが内丸に分かれて 5 年が経とうとしています。この間、移転前に想定していなかったあるいは想定していても実情は異なっていたことが多くありました。現場を含めて、着実に解決をしていったつもりですが、この道には終わりはないと感じています。附属病院および内丸メディカルセンターの収支はどうなっているのかをよく聞かれます。結論からいうと、赤字です。その理由は、2つの施設の働きが悪いわけではありません。むしろ皆様の努力で両施設とも稼働額は上限にあると思います。問題は、コストです。2つの施設が年間に支払うコストは、移転前に予想していたものより大きくなっています。今後は、今の稼働を維持しつつ、如何にコストを下げるかを検討しなければなりません。幸い、附属病院職員に病院経営についての意見を募集したところ、多くのアイデアをいただきました。これらのアイデアと世の中の流れをにらみつつ、経営改善をしていきたいと思っております。さらに、皆様

お気づきのように、附属病院および内丸メディカルセンターの中長期的な展望も決めなければなりません。特に、内丸メディカルセンターの将来は盛岡市あるいは岩手県の内丸地区再開発と連動しています。行政の動きを見つつあるいは協力しながら内丸メディカルセンターの将来像を描きたいと思います。

医療系大学の教育とは何でしょうか？私は、「研究と臨床のやり方を教育する」ことだと思っております。この抱負で、「研究と臨床」を先に述べたのは、「確かな研究基盤とすぐれた臨床を行う場がなければ、教育はできない」という信念があるからです。もちろん教育の対象は学部学生のみならず大学院生および若手医療者も含みます。しかし、現実的には医療系大学は国家試験の合格率で世間からは評価されます。この点を十分ご理解し、日夜学生指導に注力されている教員・職員の皆様には頭が下がります。一方で、現在の少子高齢化と高い大学進学率のなかで、「国家試験の合格率を各段に上げる」魔法はありません。「われわれが入学させた学生を留年させず、卒業させる」ことを着実に進めることしか方法はないと考えます。働き方改革のなかで、この負担を教員・職員の皆様に強いることは大変心苦しいのですが、よろしくお願いいたします。

私自身はこの 6 年間病院長を行う上で、大事にしてきたことがあります。それは「現場主義と情報開示」です。「なるべく現場から情報を集め、何をすれば現場がよくなるのか？」を考え、「問題点があれば、解決方法とともに開示する」ことです。この方針は学長となって今後も継続するつもりです。加えて、政治・行政の流れを理解することです。この流れにそのまま乗るつもりはありませんが、世の中の流れを見誤ると、危機に陥ることは明白です。この辺は十分注視していきたいと思います。

最後に、私自身は見かけが大きく、声も大きく、気が短いため、怖そうに見えると思います。私は、人と話すことが好きで医者になったようなもので、話し合いは大歓迎です。是非文句を言いに来ていただきたいと思います。頭ごなしに怒るようなことはいたしません。また、現在行っている病院内の職員投書を全学に広げたいと思っております。私が気づかない問題をご教示いただきたいと存じます。皆様と一緒にこの大学をよくすることだけを考え、努力してきたいと思います。ご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

看護学部長就任挨拶

～看護学部の新たな挑戦によせて～

看護学部長 えん どう ふとし 遠藤 太

(地域包括ケア講座 教授)



この度、看護学部長の役職を拝命いたしました。今後、看護学部が直面するであろうさまざまな課題や困難を思うと、身が引き締まる思いです。一方で、先輩方が築き上げてきた礎に、新たな希望を積み重ねる一助となれることを大変光栄に思っています。

本学創立 120 周年記念の節目に創設された看護学部も、早いもので、4 期生を社会に送り出すことができました。学生たちは、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という前例のない困難の中でも、連携機関の多大なる努力と協力のもと、臨地実習を継続し、立派に専門職として社会に踏み出す基盤を整えることができました。この経験は、今後予想される様々な災害や危機に対しても、何度でも立ち向かい、乗り越えていく力を一人ひとりに与えたと確信しております。

大学附属の病院が隣接する看護学部の強みは、臨床と教育がシームレスに連携し、上記のような困難な状況を乗り越える力を備えていることにあります。同時に、今まさに現場で起きている課題や問題を、共に考え、解決策を見つけていく環境が整っていることも大きな力となっています。その強みを十分に活用するため、今後も臨床と緊密な関係を維持し、相互に利益をもたらす協力関係を築きながら、看護教育の質の向上を目指すことが重要になると考えています。

近年、医療用ロボットや AI を活用した医療技術が急速に進展し、大学教育においても無視できない状況となっています。これら先端技術の活用により、医療の効率化や医療事故の防止など、メリットを十分に享受つつ、一方で科学技術とは相いれぬ人間の

惻隱の情、共感、ふれあい、そして“誠の医療人”としての心など、AI には代替できない看護のすばらしさ、大切さを学生には伝え続けていかなければなりません。私たちの大学や看護学部が築きあげてきた理念や伝統を守りながら、新たに押し寄せてくるさまざまな課題に対して、我々は挑戦していく必要があります。教職員と共に周囲をも巻き込みながら一丸となり、それら一つ一つに着実に取り組んでいくことが急務であり、使命であると確信しています。

最後になりますが、看護学部の国家試験合格率は、3 年連続 100% を達成することができました。保健師、助産師課程の合格率も 100% です。「たかが数字」と言われることもありますが、この数字の背後には、教職員たちの情熱的で献身的なサポートが存在します。この実績を誇りに思いつつ、今後も学生たちを全力で支えていきたいと考えています。

皆様方の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特集

当院のロボット支援手術

当院では2013年に手術支援ロボット「da Vinci(ダヴィンチ)」, 2022年には「hinotori™ (ヒノトリ)」を導入し複数の診療科で手術が行われています。

本号では、ロボット支援手術の特徴や2つのロボットの機能等をご紹介します。

ロボット支援手術とは？



金 一 教授
(心臓血管外科学講座)

ロボット支援手術は、腹部や胸部にロボットアームを挿入し、医師が別の場所から操作する手術です。当院では2013年よりda Vinciおよび2022年から国産のhinotori™を導入しています。

ロボット支援手術のメリット

1. 小さいキズ：従来の手術法より傷口が小さく、体への負担が少ない
2. 早い回復：術後の回復が早く、出血や感染症などのリスクも低い
3. 高い精度：ロボットアームの正確な操作で緻密な手技、微細な組織も扱える

現在、様々な診療科（泌尿器科：前立腺がん等、産婦人科：子宮の良悪性腫瘍等、消化器外科：胃、大腸、食道がんおよび肝臓、膵臓腫瘍等、呼吸器外科：肺の良悪性腫瘍、縦隔腫瘍等、心臓血管外科：僧帽弁閉鎖不全症における弁形成術など）での保険適応が広がっています。

■ 機器の構造

—— サージョンコンソール ——

操縦席に座り、3D画像を見ながら手元のコントローラを操作します。術者は手足、そして視覚を駆使することで、すべての操作を行うことができます。画面に映る鉗子が手元のコントローラを握った手と同じ自然な位置になるように設定され、目と手が協調しやすくする等、操作性にも配慮されています。



—— ペイシャントカート ——

サージョンコンソールからの指示を受け、ロボットアームにその動きが伝わり手術を行います。4本のアームと3本の鉗子、1本の内視鏡カメラで構成され、鉗子の交換は、術者によってスムーズに行うことができます。本体の底にはモータードライブが装備され、少ない力でもカートを移動させることができます。



—— ビジョンカート ——

高解像度3Dハイビジョンシステム搭載。上部にはタッチスクリーンモニタが装備され、サージョンコンソールで操作をしている術者と同じ映像が共有されます。タッチスクリーン上に指で線などを描いて、術者に視覚的な情報を伝えることが可能で、モニタの上部にはマイクがありサージョンコンソールにいる術者と音声コミュニケーションを容易に取ることができます。



当院の手術支援ロボット

当院では2種類のロボットを導入し、多くの診療科で手術が行われています。それぞれの機器の機能や特徴を担当医に聞きましたのでご紹介します。

■ daVinci (ダヴィンチ)



齊藤 元 教授
(呼吸器外科学講座)

から離れた操縦席で精緻な遠隔手術を行うことができます。

同機器による手術を医療機関が導入するにあたって、執刀医は当該領域における日本国内関連学会が推奨する規定を満たしたうえで、インテュイティブサージカル社のトレーニングコースを受講し、その操作資格を取得します。daVinci は日本において、最も多くのシェアを占めるロボット支援手術機器であり、本機を用いた保険適応術式が最も多いのも特徴です。

「daVinci」とは、ロボット支援手術を行う医療機器であり、1990年代に米国インテュイティブサージカル社が開発し、2000年以降に日本に導入されました。daVinciによるロボット支援手術は2012年に初めて前立腺がん手術で保険適応となり、その後徐々に適用が拡大し、2024年では、泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科、心臓外科、頭頸部など各領域の一部の術式に保険が適用されています。

他ロボット支援手術機器同様、daVinciには人間の腕に似たアームが複数装備されており、手術では患者さんの皮膚数か所を各々1～2cmほど切開し、アームの先に取り付けた3Dカメラや鉗子を体内に挿入します。執刀医は、鮮明で立体的な手術画像のもと、術者の手の動きを正確に再現するだけでなく人間の手首よりはるかに可動域が広い鉗子類を自在に操作し、手術台から



■ hinotori™ (ヒノトリ)

hinotori™の一番の特徴は国産の手術支援ロボットであることで、提供しているメディカロイド社は川崎重工株式会社とシスメックス株式会社の共同出資により設立されました。構造はdaVinciと類似しており、4本のオペレーションアームをサージョンコクピットから操作します。独自のデザインによりオペレーションアームをコンパクトにセッティングすることが可能で、アシストする医師の操作スペースを広く確保することができます。



また、オペレーションアームの関節が多いことから、人間の腕のようななめらかな動きを可能としています。国産ということで国内の医師の意見を速やかに反映できること、安価であることが大きなメリットで、daVinciと比較してちょっとした操作性の難点・相違点も徐々に改善しています。今後は遠隔による手術支援や指導も想定しており、盛岡と沿岸地域をつないで手術することが近い将来現実になるかもしれません。



新田 浩幸 教授
(外科学講座)

当院での診療実績

岩手医科大学附属病院には 2013 年 3 月に daVinci Si が導入され、はじめに泌尿器科でロボット支援手術が開始されました。2018 年以降はロボット支援手術の適応疾患が拡大し、産婦人科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科でも手術が行われるようになり、2022 年 11 月には国産ロボット手術支援機器 hinotori™ が導入され、ロボット 2 台体制で手術が行われるようになりました。さらに 2023 年 4 月には daVinci 機器の更新により新機種の daVinci Xi を導入し、ロボット支援手術の件数は、直近 2023 年に年間 287 件と最多となり、現在までの総件数は 1,826 件となっています（2024 年は 3 月末までの集計）。このように、多診療科により多くの疾患に対して、ロボット支援手術は行われており、今後益々の手術件数増加が予想されます。



小原 航 教授
(泌尿器科学講座)

図 1. ロボット支援手術件数

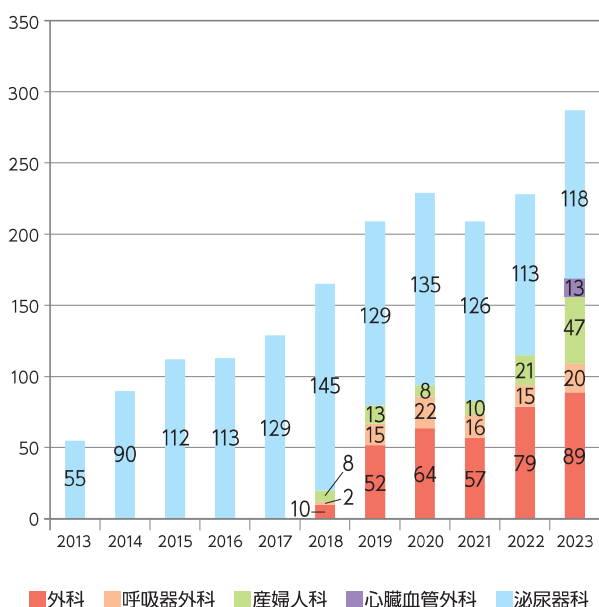
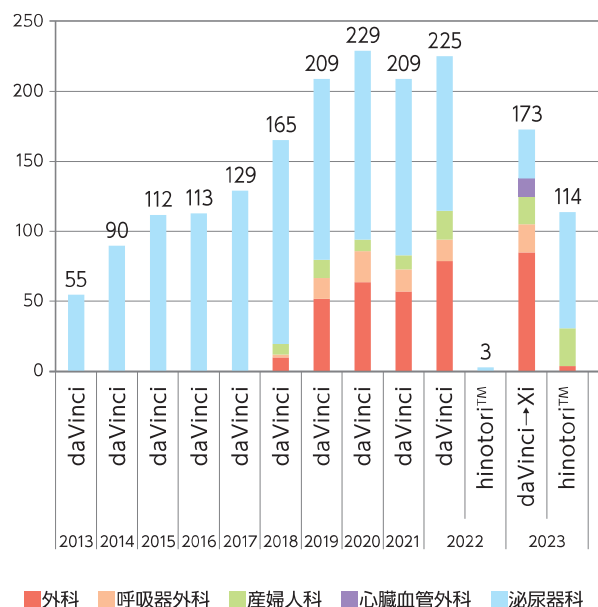


図 2. ロボット機種別の手術件数



ロボット支援手術の今後の展望と課題



馬場 長 教授
(産婦人科学講座)

ロボット支援手術は当初戦地における遠隔手術を目的として開発され、臨床応用が始まったのは 1997 年 3 月とその歴史は浅いです。本邦では既に 5 社 6 機種合計 500 台以上の手術支援ロボットが全国の医療機関で稼働していますが、今後はさらに各領域からのニーズに合わせて多様な機種の導入が進むと期待されています。当科でも 2018 年 3 月より子宮体癌に対するロボット支援手術を開始し、現在までに 2 機種 3 術式で 101 例（2024 年 2 月時点）実施しましたが、子宮全摘術の 6 割がロボット支援下に行われる米国との差はとても大きいです。AI をはじめ最新のコンピューター科学技術の数々が患者さんと術者の間を安全確実につなぐロボット手術が標準手術となる日が来るのは間違いありませんが、高額な運用コストが北東北での導入の妨げとなっています。岩手圏域の患者さんがいつでもどこでも精緻なロボット支援手術の恩恵を受けられるよう、私たち岩手医科大学は県立病院と連携しながら積極的に若手医師の育成と安全なロボット支援手術の普及活動に取り組んでいます。

事業計画

1. 策定方針

本法人は、最新の生命科学に対応した教育・研究・診療を実践し、将来の更なる発展のため総合移転整備計画を策定し、開学以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019 年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020 年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発に向けた事業資金を確保しつつ、事業を推進する計画であったが、附属病院建設に係る借入金返済が始まった中、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大による診療・手術制限等に伴う医療収入の減少、更には近年の物価高騰等に伴う支出の増大が法人経営に甚大な影響を与えたことから、各事業の見直しを余儀なくされたところである。また、本法人は、従前から医療収入をはじめとする増収策や経費節減等の様々な対策を講じてきたが、附属病院移転以後、未だ収支の均衡には至っていないことから、この苦境を打開すべく財務改善に向けた実効性のある対策を打ち立て、全学を挙げて確実に実行し、強固で安定した経営基盤を築いた上で、今後の道筋を確かなものにしなければならない。そして、医療系総合大学として、誠の人間を育成することを第一義に、質の高い教育研究活動を実践し、県内唯一の特定機能病院として、高度医療の堅持と地域医療への貢献を果たしていく。

2024 年度は経営・財務改善に向けた取組を最優先事項とし、経営・財務改善に係る短期的・中長期的な諸計画を策定の上、速やかに実行するものとする。また、質の高い教育・研究・診療活動の実践、国家試験合格率の向上、学生の確保、医療収入の増収、外部資金の獲得、そして恒常的経費の抑制等に努めることとする。

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくために「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定した。その取組・進捗状況については、検証の上、社会情勢や経済状況等を踏まえながら必要に応じ計画の見直しを行い、事業の適切な推進に努めることとしており、2023 年度実施予定事業について検証を行った結果、10 月時点で「計画どおり達成した：28 事業」「計画どおり達成する見通しである：84 事業」「計画どおり達成する見通しが立たない：8 事業」となり、今後予定している事業の適切な推進に向けて実施時期や規模等計画の一部見直しを行った。

以上を踏まえ、中期計画に基づき、2024 年度は以下の事業を実施する。

2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和 6 (2024) 年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和 6 年度）をご覧ください。

1. 管理運営、経営改善関係

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ①経営・財務改善に向けた取組 | ⑧借入金と借入金利息の支払い |
| ②内丸地区跡地活用計画の検討推進 | ⑨財務分析と財務マネジメント |
| ③事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施 | ⑩本法人保有資産の有効活用 |
| ④ガバナンスの向上等による運営基盤の強化 | ⑪マルチメディア教育研究棟 4 階サーバ室電源増強工事 |
| ⑤事務局業務における R P A 化の推進、R P A に精通した人材の育成 | ⑫標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施 |
| ⑥ワークフローシステムの導入 | |
| ⑦勤怠管理システムの導入 | |

2. 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科：教育課程の充実と情報公開の推進
- ②医学部：学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
- ③大学院歯学研究科：学位授与方針に対応した学位論文審査基準の設定及び学生への事前周知（早期課程修了含む）
- ④歯学部：教育課程の充実
- ⑤歯学部：広報活動の充実
- ⑥歯学部：計画的な教員選考
- ⑦薬学部：薬剤師養成教育の充実と入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化
- ⑧看護学部：学部を安定的・発展的に機能させていくための取組
- ⑨全学的教育改革の支援活動
- ⑩教学Ⅰ R（Institutional Research）の充実
- ⑪教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑫実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
- ⑬シミュレーション教育環境の整備
- ⑭マルチメディア教室ノートパソコンの更新
- ⑮入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑯古書・貴重書の修復・保管
- ⑰地域への情報発信
- ⑱蔵書の在り方に係る評価・分析
- ⑲産学官連携を通じた研究成果の社会還元への推進
- ⑳学生支援体制の推進
- ㉑学生のキャリアビジョンを上げ、希望する就職を実現するための支援
- ㉒医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3. 補助事業及び委託事業関係

- ①医歯薬総合研究所研究施設スタッフのスキルアップ、研究施設の利用者数増加のためのサービス内容の周知
- ②日本災害医療ロジスティクス研修
- ③災害時実践力強化事業
- ④災害医療研修会
- ⑤いわての師匠事業
- ⑥東北メディカル・メガバンク計画
- ⑦岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑧岩手県こころのケアセンター事業
- ⑨いわてこどもケアセンター運営事業

4. 診療関係

- ①医師の時間外労働規制に対する取組
- ②病院運用の効率化に向けた取組の推進
- ③320列CTスキャナの増設
- ④手術用顕微鏡システム「ORBEYE」の導入
- ⑤内丸メディカルセンター入院棟6階病棟稼働状況改善に向けた取組
- ⑥内丸メディカルセンター歯科医療デジタル化に向けた取組

5. 施設設備関係

- ①動物研究センター熱源・空調設備制御用PLC装置の更新
- ②矢巾キャンパス図書館災害（図書落下）防止対策

本法人は、2020年度から2024年度にかけての主要計画を取りまとめ、2020年3月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定し、本年3月に計画の一部変更等を行いました。

令和6（2024）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程と特定行為教育課程の合同修了式が挙行されました

3月27日（水）、附属病院10階研修室において、令和5年度緩和ケア認定看護師教育課程及び特定行為教育課程の合同修了式が挙行されました。

修了生26名に対し終了証が授与され、木村高度看護研修センター長から式辞、野原勝岩手県企画理事兼保健福祉部長及び相馬一二三岩手県看護協会会長から祝辞が述べられました。続いて、緩和ケア認定看護師教育課程16名を代表し依谷愛さんから「患者さん、ご家族のQOLの向上を目指すことが緩和ケア認定看護師としての使命であると自覚し、覚悟を持って邁進する」、特定行為教育課程10名を代表し藤澤幸子さんから「医師との連携を強化し、患者さんがその人らしい生活を送り、安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、得た学びを実践する」と謝辞が述べられました。



附属病院10階研修室で行われた修了式

名誉教授称号授与式が挙行されました

3月29日（金）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、祖父江理事長が臨床検査医学・感染症学講座諏訪部章教授、解剖学講座人体発生学分野人見次郎教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列（左から）：酒井副学長、三浦副学長、佐々木医学部長
前列（左から）：諏訪部名誉教授、祖父江理事長、人見名誉教授

辞令交付式が挙行されました

4月1日（土）、大堀記念講堂において、令和6年度新入職員辞令交付式が挙行され、93名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、薬剤部薬剤師の工藤渚さんが祖父江理事長より辞令書を受け取りました。NICU病棟看護師の熊谷香歩さんは「高い倫理観を持ち、感謝の気持ちを忘れず、質の高い医療を実践し、多くの笑顔を守るよう、努力していきたい」と力強く誓詞を述べました。

■採用者内訳

事務員2名、技術員補2名、薬剤師4名、臨床検査技師3名、診療放射線技師3名、理学療法士2名、作業療法士2名、臨床工学技士1名、管理栄養士1名、歯科衛生士2名、保健師1名、看護師70名



新入職員誓詞

岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました

4月6日（土）、歯学部4階講堂において、令和6年度岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行され、在校生や教員、多数の保護者が出席されました。

式では、入学生27名の呼名の後、小林校長から入学の許可が宣言されました。入学生を代表し小野寺乃愛さんから「本校の学生としての自覚を持ち先生方のご指導を仰ぎ勉学に精進します」と宣誓がありました。

入学生は医療人としての道の第一歩を踏み出し、期待に胸を膨らませているようでした。



入学生宣誓

岩手医科大学入学式が挙行されました

4月10日（水）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて、令和6年度岩手医科大学入学式が挙行され、本法人役員や教職員をはじめ、多数の保護者が出席されました。保護者の出席は5年ぶりとなります。

今年度は大学院医学研究科博士課程 25 名・修士課程 9 名、歯学研究科博士課程 2 名、医学部 130 名・3 年次編入学 4 名、歯学部 28 名・2 年次編入学 1 名、薬学部 33 名、看護学部 91 名・3 年次編入学 1 名の入学生を迎えました。



トーサイクラシックホール岩手大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓



会場の様子

4学部合同セミナーが行われました

4月20日（土）、矢巾キャンパスにおいて、4学部合同セミナーが開催されました。この科目は、4学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームにより PBL（問題基盤型学習）形式で検討するものです。

当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。



チーム作業（事前学修の内容プレゼン）

南部盛岡チャグチャグ馬コパレードが大学および附属病院前で行われました

4月27日（土）、南部盛岡チャグチャグ馬コパレードが行われ、装束を身につけた 11 頭のチャグチャグ馬コが大学及び附属病院前を練り歩きました。

「チャグチャグ馬コ」は、毎年6月の第2土曜日に滝沢市から盛岡市までを練り歩く伝統行事です。例年、矢巾町で飼育されている馬も参加していることから、去年から矢巾町でもパレードが行われています。当日は、岩手県消防学校から徳丹城跡公園までのおよそ2キロの道のりを練り歩きました。



附属病院前を通過するチャグチャグ馬コ

歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野の深澤 翔太 准教授が 日本デジタル歯科学会で Digital Science Award を受賞しました

この度、令和5年度日本デジタル歯科学会第4回Digital Science Awardを受賞致しました。本学術賞は、デジタル歯科関連の教育、研究におけるこれまでの功績を称えていただいたものとなります。私は大学院時代から今日に至るまで一貫してデジタル歯科関連の教育、研究、学会発表、論文投稿を行って参りました。今回、その成果を認めていただき、本学術賞を受賞させていただきました。現在、デジタル歯科関連の研究と臨床は、日々のアップデートが追いつかないほど急速に進歩し、発展し続けている分野となっております。本学術賞受賞に甘んじることなく、今後も研究を継続し、成果を積み重ねることで、研鑽を積んでいく所存です。

最後に、いつも御指導して下さい田邊先生（令和6年3月まで補綴インプラント学講座・補綴インプラント学分野 特任教授）、歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野の今一裕准教授、当講座の先生方ならびに、本研究の遂行にご尽力いただきました諸先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。（文責：歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野 准教授 深澤 翔太）



今准教授、深澤准教授、田邊先生

中央臨床検査部の相原 みゆき 臨床検査技師が 日本超音波医学会東北地方会学術集会で最優秀奨励賞を受賞しました



黒田特任教授、相原臨床検査技師

この度、日本超音波医学会第67回東北地方会学術集会（令和6年3月3日現地開催）において「最優秀奨励賞」を受賞しました。演題は、「Fontan関連肝疾患の新病期分類の提案とSWEの有用性に関する検討」です。Fontan関連肝疾患とは、先天性心疾患に対する手術に関連した肝疾患のことで、肝硬変や肝細胞がんの合併も見られ、診断アルゴリズムの確立が重要視されています。今回の発表では、他のびまん性肝疾患に対する考え方とは全く異なる視点で病期を仮定し、その分類における腹部超音波検査の有用性を検討した点が評価されました。超音波検査は、CTやMRIより低侵襲でありながら、時間・空間分解能が高く、リアルタイムで体内の画像を抽出でき、他の画像診断では困難な小さな病変の抽出が可能で、患者さんに寄り添う非常に身近で有用な診断ツールです。Fontan術後の患者さんの多くは若年であることから、超音波検査の担う役割は大きいと考えています。受賞にあたり御指導、御協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。

（文責：中央臨床検査部 臨床検査技師 相原 みゆき）

臨床薬学講座地域医療薬学分野に配属している薬学部6年生の長澤 茉依さんが 日本薬学会で優秀発表賞を受賞しました

薬学部地域医療薬学分野所属の6年生長澤 茉依さんが日本薬学会第144年会において、優秀発表賞（ポスターの部）を受賞しました。北海道・東北地域の私立薬学部生では唯一の受賞です。研究は、ChatGPTを用いて作成した医薬品情報とくすりのしおりの内容を比較し、ChatGPTが生成する情報の精度に焦点を当てました。この研究は、1,268演題の中から選ばれたものであり、その成果は大きな注目を集めています。

（文責：臨床薬学講座地域医療薬学分野 特任教授 松浦 誠）



今冬の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。
令和5年12月から令和6年3月末まで実施しました「冬季の省エネ活動」について、ご報告いたします。

■ 冬季の省エネ活動概要

《実践期間》 令和5年12月1日～令和6年3月31日

《削減目標》 主要3施設（矢巾キャンパス・附属病院・内丸メディカルセンター）の暖房用燃料の使用量を前年度比で1%削減する

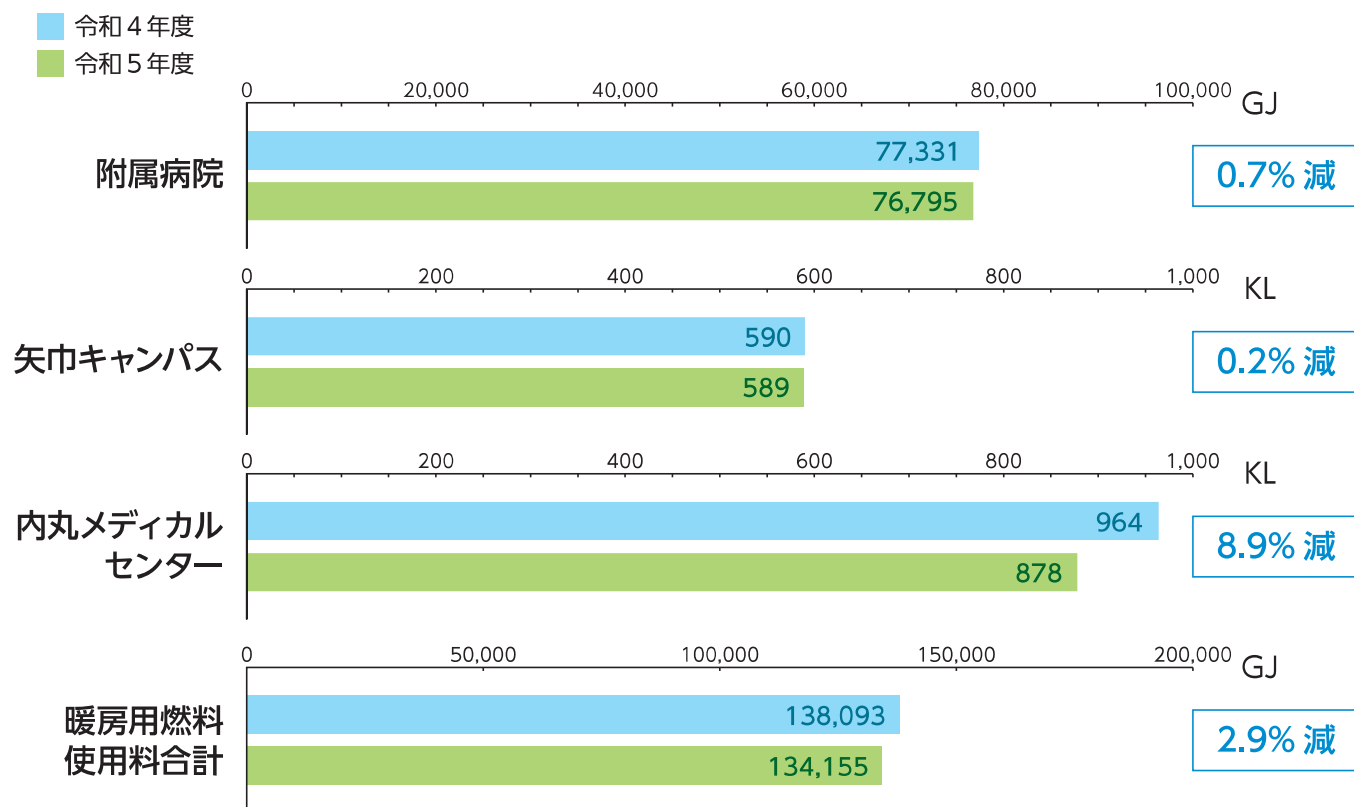
《取組》 ①暖房設定温度の調整（室温22℃を目安） ④施設利用状況の巡視
②空調運転時間の調整 ⑤月毎の取り組み状況報告
③啓発ポスターの掲示

■ 冬季省エネ活動実施結果

主要3施設合計の使用量については目標を達成、また、施設別では内丸メディカルセンターが目標を大きく超える結果となりました。

12月から2月は平年より温暖であったため、2月末の時点では主要3施設全てにおいて目標を大きく上回る状況でしたが、内丸メディカルセンター以外の2施設は、3月が前年度同月の平均気温より4℃も低く推移したことにより使用量が大幅に増加し、期間合計目標を達成することができませんでした。

本活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。



■ エネルギー使用料金の削減効果

上記の暖房用燃料使用量の削減効果は、令和5年度冬季の取り組みと比較し、3,600万円弱の削減効果がありました。

省エネ活動はできることからひとつずつ、皆様のご協力をお願いいたします。

新任教授の紹介

令和6年4月1日就任

臨床遺伝学科

鈴森 伸宏 (すずもり のぶひろ)

昭和43年2月7日生
名古屋市出身



教職員への自己PR

本年4月医学部臨床遺伝学科教授を拝命致しました。臨床遺伝学科は、基礎から日常診療にわたり、各講座・学科に関連する領域です。出生前診断、周産期、遺伝カウンセリングに長年関わっており、先天性疾患、小児・成人の遺伝性疾患、腫瘍をはじめ、さまざまな疾患について全診療科の方々と連携して、診療・研究・教育を拡充することが出来ればと存じます。本学の伝統を継承して、質の高い医療の提供、後進の育成に努め、本学の発展に貢献できるように一歩ずつ前進して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成5年3月 三重大学医学部卒業
平成5年5月 国立病院機構名古屋医療センター 研修医
平成8年4月 名古屋市立大学大学院医学研究科 産科婦人科
平成12年9月 米国ベ일러医科大学 病理学 助手
平成14年9月 名古屋市立大学大学院医学研究科 産科婦人科 助手
平成19年4月 同 講師、臨床遺伝医療部 副部長
平成22年7月 同 准教授
平成29年7月 同 病院教授
令和6年4月 現職

研究テーマ

- ・母体血、羊水等を用いた出生前遺伝学的解析、胎児画像診断
- ・妊産婦、褥婦におけるメンタルストレスや労働・環境調査研究

主な著者論文

- ・無痛分娩と産褥うつ状態との関連についての検討 (BMC Pregnancy Childbirth 2021;21:522)
- ・高年妊娠でNIPTを受検した妊婦におけるメンタルストレスについて (Prenat Diagn 2014;34:1055-60)
- ・SYCP3 バリエーションと反復流産との関連について (Hum Reprod. 2011;26:1259-66)

趣味

油彩、園芸、音楽鑑賞、文学散歩

令和6年4月1日就任

解剖学講座 人体発生学分野

木村 英二 (きむら えいじ)

昭和45年5月18日
東京都杉並区出身



教職員への自己PR

令和6年4月より、岩手医科大学 解剖学講座 人体発生学分野教授を拝命致しました。教育では、主に肉眼解剖学に関わる内容を担当させていただきます。肉眼解剖学実習は、学生の医師へのモチベーションを高め、心構えや人の尊厳を考えさせる上で極めて重要です。献体いただいたご遺体に対する感謝の気持ちを学生と共有し、将来本学を支えていく人材の育成に貢献できるよう尽力していきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成13年3月 新潟大学医学部 卒業
平成13年4月 新潟大学院医歯学総合研究科顕微解剖学分野 入学
平成17年3月 新潟大学院医歯学総合研究科顕微解剖学分野 修了
平成17年4月 岩手医科大学医学部第二解剖学講座 助手
平成21年4月 岩手医科大学解剖学講座発生学・分子探索分野 助教
平成27年10月 岩手医科大学解剖学講座人体発生学分野 講師
平成29年4月 岩手医科大学解剖学講座人体発生学分野 准教授
令和6年4月 現職

研究テーマ

小型魚類ゼブラフィッシュを用いた脳血管系の形成過程の解析

主な著者論文

- ・ゼブラフィッシュにおける脳と脊髄間の血管系の統合 (Dev Biol. 2015; 406: 40-51.)
- ・ゼブラフィッシュにおける眼の血管形成のライブイメージング (PLOS ONE; 2017; 12: e0176456.)
- ・ゼブラフィッシュ胚の血管系への赤外レーザーの応用：単一内皮細胞での遺伝子誘導 (Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2013; 33: 1264-1270.)

趣味

サウナ、旅行、料理

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第21回目のご芳名紹介です。(令和6年2月1日～令和6年3月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<100,000>

株式会社 日本眼科医療センター (宮城県仙台市)

<ご芳名のみ>

株式会社 システムエイド (岩手県盛岡市)

■ 個人 (6件)

<30,000>

高橋 智彦 (父母)

<1,000>

直井 小百合 (一般)

<ご芳名のみ>

川村 英伸 (医38)

小澤 正吾 (役員)

宮崎 茂和 (父母)

岸 東彦 (医33)

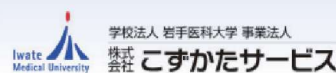
(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	505	223,998,220
在 学 生 ご 父 母	392	94,080,000
役員・名誉教授	49	54,420,000
教 職 員	47	7,460,000
一 般	27	488,073,572
法 人 ・ 団 体	308	183,505,481
合 計	1,328	1,051,537,273

(令和2年9月1日～令和6年3月31日現在)

お知らせ 社会貢献型職域販売サイト

「CLOSED Mart」のご案内



お買い物でロスを削減して社会貢献をしませんか??

社会貢献型職域販売サイト **CLOSED Mart** SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 「お買いもの」 = 「社会貢献 (ロス削減+寄附)」
株式会社ファーストクラスは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

〈賞味期限切迫や滞留在庫などロス商品を安価に掲載〉 **90%OFF** 最大



岩手医科大学職員様専用法人コードでログイン

CLOSED Martサイトへ closedmart-members.com/

step 1 URLまたは QRコードからアクセス後、法人コードを入力してください。

step 2 法人コード **9021G701**

※法人コードは定期的に変更となる場合がございます。



スマホから簡単アクセス

1. 2023年度補正予算について

2. ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書の作成について

各部門等で点検した本法人ガバナンス・コードの実施状況を2023年度の報告書として取り纏め、本学ホームページ上へ公表することについて審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

3. 薬学研究科修士課程の募集停止及び廃止について

薬学研究科修士課程は主に4年制薬学部出身者の進学先として設置した課程であり、6年制薬学部のみを設置する本学が学生募集を継続し、定員を充足させることは極めて困難な状況であることから、令和7年度以降の学生募集を停止するとともに、現在、在学生がいないため、今年度末をもって廃止することを承認した。

4. 附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部改正について

附属病院規程について、消化器病領域の更なる良質な医療の提供、医師確保及びより効率的な学生教育を行うことを目的に、消化管内科と肝臓内科を統合し「消化器内科」とすること、チーム医療部にRapid Response System（院内迅速対応システム）に基づき、急変リスク患者を早期に認識し、介入する医療チームとして「コードイエローチーム室」を、患者のQOL向上、術後合併症の減少及び在院日数の短縮等を目的に「術後疼痛管理チーム室」を、2024年4月から施行される医師の働き方改革にあたり、医師の業務負担軽減及び診療支援を目的に、診療看護師（NP：Nurse Practitioner）が所属する「NPセンター」を新たに設置したいこと、また、内丸メディカルセンター規程について、附属病院規程と同様に「消化器内科」に変更することとし、それぞれ一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

5. 中期計画の一部変更及び2024年度事業計画について

6. 2024年度予算について

7. 役職者の選任について

いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長 丹野 高三（新任）
（任期 2024年4月1日から1年間（他の役職者の残任期間））

8. 教員の人事について

医学部臨床遺伝学科 教授

鈴森 伸宏（前 名古屋市立大学大学院医学系研究科共同研究教育センター 准教授）

統合基礎講座解剖学講座人体発生学分野 教授

木村 英二（前 同分野 准教授）

医学部内科学講座消化器内科分野 准教授

柿坂 啓介（前 同分野 特任准教授）

教養教育センター外国語学科英語分野 准教授

柳谷 千枝子（前 同分野 講師）

医学部脳神経外科学講座 特任准教授

幸治 孝裕（前 同講座 特任講師）

（発令年月日 2024年4月1日）

9. 岩手医科大学学則の一部改正について

大学設置基準の改正に伴い、単位の計算方法を変更する他、2024年度の教育課程再編に伴い、別表1を変更することとし、岩手医科大学学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

10. 岩手医科大学大学院学則の一部改正について

薬学研究科修士課程（薬科学専攻）の廃止及び秋入学の設置に伴い、岩手医科大学大学院学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

11. 医療専門学校学則の一部改正について

今般の社会的なニーズに応える歯科衛生士を養成するためには授業時間数を確保する必要があり、休業期間の柔軟な対応が求められること、また、学期の表記を岩手医科大学学則と統一することとし、医療専門学校学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

12. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について

統合基礎講座法科学講座法歯学・災害口腔医学分野及び歯学部口腔医学講座歯科学教育学分野について、運用体制の安定化と教育改革の推進を図ることを目的に、歯学部運用定員を使用して新たに教員定員を設けることとし、教育職員の定員に関する規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

13. 所有土地の売却について

旧花巻温泉病院鉱泉地について、平成5年に国から経営移譲を受けた時点で既に枯渇し、埋め戻された鉱泉地も移管されたが、本学では活用できる見込みがないことから、隣接土地所有者に売買を打診したところ、購入の意思を確認したため、売却することを審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

14. 固定資産管理規程等の一部改正について

固定資産管理規程について、経費削減の一環として部署間での固定資産の移動移管手続きを簡素化し、学内での固定資産の有効活用を推進するため、管理統括責任者及び管理責任者を固定資産等の管理実態に沿った形とすること、また、固定資産管理規程における管理責任者の変更に伴い、物品管理規程についても同様の管理体制とすることとし、それぞれ一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

15. 理事の職務担当区分について

2024年4月からの理事の職務担当区分について承認した。

1. 名誉理事長の称号授与について

故 小川 彰（前 学校法人岩手医科大学理事長）

（称号授与年月日 2024年5月1日）

2. 名誉学長の称号授与について

祖父江 憲治（前 岩手医科大学長）

（称号授与年月日 2024年5月1日）

3. 理事の競業について

4. 教員の人事について

医学部病理診断学講座 准教授

刑部 光正（前 同講座 特任准教授）

（発令年月日 2024年5月1日）

5. 内丸メディカルセンター規程の一部改正について

全身性あるいは臓器特異的自己免疫疾患の診療を組織横断的に行う臨床免疫センターを設置し、新規患者獲得による増収と患者サービスの向上を図ることを目的に、内丸メディカルセンター規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年5月1日）



定年を迎えられた教職員の皆様、
永い間お疲れ様でした



本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

- 3列目 ジェイムズ ホブbs 小笠原 正人 遠藤 寿一 福島 明宗 諏訪部 章 伊藤 努
2列目 小笠原 静子 猿舘 美喜子 吉田 順子 出口 育美 相澤 文恵 三本松 史子 野田 真喜子 井上 由美子
1列目 佐藤看護部長 三浦看護学部長 小林歯学部長 三浦副学長 祖父江理事長・学長 酒井副学長 河野薬学部長 山本事務局長

岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集後記

いつの間にやらロボットやAIといった言葉が日常となった世の中です。焼肉屋さんでは猫型ロボットが冷麺を運び、ネットを検索すれば「AIを使ってもバレないレポート作成のコツ」が並んでいます。

それならば、流行りに乗って編集後記もAIに任せてみるかと試したものの、今ひとつピンとこないのは問いかけ方に問題があるのか、私の感覚が世間とズレているからなのか……七転八倒しているうちに日が暮れて、とどのつまり最初から自分で書いたほうがよっぽど早かったことに気づいたのでした。

それでは問題です。この文章はAIによるものなのでしょうか？それともAIに愛想を尽かされた人間が自分で書いたものなのでしょうか？

(編集委員 影山 雄太)

岩手医科大学報 第553号

発行年月日／令和6年5月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@jiwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp